

JAMトピックス

連合 第89回メーデー中央大会

JAM結成初の結集デモ

「価値を認めあう社会へ」 シュプレヒコール



連合第89回メーデー中央大会第一デモ梯団の先頭
右から中井書記長・芳野副会長・安河内会長・岩崎JAM東京千葉執行委員長・ミンスイFWUBC会長（在日ビルマ市民労働組合）



JAMは4月28日の連合第89回メーデー中央大会に、1999年のJAM結成以来、初めて結集デモを行い参加した。

JAM東京千葉と大手労組、JAM本部の約200人の梯団デモは、中小零細企業への公正取引を求める「価値を認めあう社会へ」を旗印に『「製品」と「労働」に適正な価値を』など、労働条件の企業規模間格差、男女間格差の是正といった、労働の価値を公正公平に評価する賃金処遇などを訴えた。また、今国会に提出された「働き方改革関連法案」に対し「働く人の視点で働き方改革を実現しよう」、「高度プロフェッショナル制度の創設を阻止しよう」などのシュプレヒコールを挙げた。新宿公園から代々木公園メーデー式典会場までの約3キロは70年代ハードロックを鳴り響かせながらデモ行進、式典に参加した。

今年の式典会場は、ステージを中央に配置し、参加者がそれを取り囲む初めてのスタイルで行い、JAM副会長の芳野友子実行副委員長（連合副会長・JUK | 労組執行委員長）の開会宣言でスタート。神津里季生実行委員長（連合会長）は「春季生活闘争は、底上げの成果が出ている。この流れをさらに拡げ、すべての働くものの処遇改善につなげよう」と呼びかけた。

中央メーデー全体参加は4万人(主催者発表)。

